

## 5 産地レポート

### 『群馬県沼田市・雪国アグリ株式会社』

#### ～消費者の関心が高まる安全・安心を基本姿勢に～

園芸農産物流通情報（月報）では、今後、山形県の産地づくりの参考となるような他県産地の情報を、「産地レポート」として随時紹介していきたいと考えている。

第1回となる今回は、正確な意味での産地とは言えないが、安全・安心に対する関心の高まりという消費者トレンドに的確に対応した契約栽培・技術指導により、関東圏のコープを中心に業績を順調に拡大している群馬県沼田市の雪国アグリ株式会社を紹介したい。

#### 群馬県北部の高原地帯に立地

8月の下旬、今年の冷夏を忘れさせるような残暑のなか、群馬県沼田市の雪国アグリ(株)を訪問した。沼田市は都心から上越新幹線を利用して約1時間、群馬県の北部、赤城山などの山々に囲まれた沼田盆地に位置しているが、標高250m～2,000mの起伏に富んだ地形ということもあり、上毛高原駅から車で約20分の雪国アグリ(株)が立地する場所はちょっとした高原地帯という印象である。

#### 雪国まいたけの子会社として設立

雪国アグリ(株)は、舞茸やエリンギの製造・販売で急成長を遂げている(株)雪国まいたけの子会社として、平成6年9月に設立され、当初は、舞茸の主原料であるオガコの品質管理業務を行っていたが、順次、業務を親会社のキノコの販売やこんにゃくの生玉・製粉の取扱いなどに拡大するとともに、平成8年4月からは取引先の要望を受け、トマトなどの青果物を取扱うようになった。

平成11年8月には現在地に事務所を移転し、試験圃場や冷蔵庫を整備、取扱い品目が拡大するなか、会社設立時の年間売上2億円弱が平成14年度決算期には18億円強(うち青果物の売上10億円)まで急成長を遂げた。

#### 安全・安心という顧客ニーズに対応したブランドづくり

急成長の要因を、取締役で企画・研究開発室主席研究員も兼ねられている成日慶(ソン・イルギョン)氏にお聞きした。ソン氏は韓国出身で約10年前に来日、平成12年3月31日まで東北大学の遺伝生態研究センターに講師として勤務し、現在、雪国アグリの実質的な牽引者として、経営戦略の確立、各産地との契約・技術指導、販売先との調整と八面六臂の活躍をされている。

ソン氏は語る。「高収益野菜が飽和市場となるなかで、高収益を確保するためには、安全・安心という顧客ニーズに対応したブランドづくりが必要。雪国アグリでは、安全・安心を実現する技術指導と契約栽培で、ブランドを確立し、生産者とともに業務の拡大を目指している。」

#### 雪国アグリの栽培基準

栽培基準は、農林水産省の定めた「減農薬・減化学肥料栽培」を基本とする。

地域の有機物を活かした循環的な方法で土づくりを行う。

薬剤を使用する土壌消毒は行わない。

除草剤は使用しない。

残留農薬については、厚生労働省の定めた基準値の概ね10分の3以下とする。  
上記活動を定期的に監査し、見直すことにより、継続的改善に努める。

### 主要取扱野菜

トマト（大玉／中玉／ミニトマト／高糖度）、パセリ、大葉（減農薬）、ほうれん草（減農薬・減化学肥料）、小松菜（減農薬・減化学肥料）、レタス（減農薬・減化学肥料）、キャベツ（減農薬・減化学肥料）、みず菜（減農薬・減化学肥料）、アスパラ（減農薬・減化学肥料）、きゅうり、なす、大根（減農薬・減化学肥料）、ニラなど

これらにより、関東圏（東京・埼玉・群馬・栃木・茨城）のコープを中心に取引が拡大しており、東京・埼玉のコープについては、既に5割のシェアをもっているという。さらに、来年度からは千葉コープの取扱いも予定されており、一層のシェア拡大が実現されるだろうと考えている。

主力商品であるトマトに限っていえば、約4割が外食産業への販売、約3～4割がコープの宅配、残り約2割がコープの店舗販売等となっている。

### 生産者とともに歩む

また、ソン氏は、「契約栽培は、数量制限や相場より安い年もあるなどのデメリットはあるものの、安定収入が確保され、農業経営の安定化・後継者の育つ農業が推進される」と、農家のメリットも語る。これを裏付けるように、農協への出荷（桃太郎トマト）とともに、契約栽培で「麗夏トマト」（業務向け）を出荷している地元農家も、比較的安定した価格で取引可能なので、経営面で有利と語る。

雪国アグリ取引産地は、地元利根沼田地区とともに、周年供給という観点から、熊本県、宮崎県、新潟県、千葉県、茨城県、福島県、山形県に拡大している。

これら産地からの出荷は、ブランド化は味と安全・安心、サイズでは勝負しないという雪国アグリの方針から、厳格な選別は求められておらず、雪国アグリサイドで規格別に選別・梱包が行われている。（もちろん、雪国アグリ選別・梱包コストは産地からの仕入価格に反映されている。）

トマトの選別・梱包作業を見学することができたが、B規格品以上の4キロ箱詰め、コープ埼玉店頭で箱売りされるC規格品・不揃いの1.5キロ箱詰め（生産者名表示／ふたなし）、同じくコープ埼玉店頭で販売される規格外品の袋詰めに分けられていた。

また、店頭販売は基本的に雪国アグリブランド名で販売されるが、コープの宅配は産地名で販売されている。

### より一層の安全・安心を目指して

会社の敷地内にトマトの試験栽培ハウスが設けられ、産地に対する技術指導のためのデータ収集と産地からの入荷量が少ない場合の補完対策として、桃太郎、ハーモニー、麗夏が栽培されている。

ここでは、防虫効果の高い黄色ランプの設置や天敵による害虫防除、減農薬、殺虫剤・除草剤を使用しない栽培体系、高温対策としてのハウス妻部のビニール開放・寒冷しゃ・白色紙マルチ、ハウス外部からの雨水浸透防止対策などが実施されており、試験研究面で

の責任者でもあるソン氏の安全・安心の確保、味の向上に向けた情熱を感じることができた。

～ まとめ ～

雪国アグリ(株)では、こんにゃく芋の皮を活用した美容材料(セラミド)の製造にも乗り出しており、安全・安心で、かつ高鮮度な野菜供給に向けた姿勢とともに、その積極的経営姿勢には目を見張るものがある。親会社である(株)雪国まいたけとともに、その動向から目を離すことはできない。



(試験栽培ハウス)



(部会長ハウス)



(トマト通常 4 kg 詰め)



(菌茸パッケージ施設)